

第4章 文化芸術分野の点検・評価

1. 対象事業

(1)文化芸術分野における主要な事業

分野別目標1 だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり		アカデミ ー計画	実施計画 事業	重点 施策
1	文化・芸術に親しむ発表会、大会等の実施	○	○	
2	I don't know(能)…NO(能)problem!～みんなで親しむ「能(Noh)プロジェクト」～		○	
3	事業提携楽団によるコンサート	○	○	
4	小・中学生のための出前コンサート	○	○	
5	文の京コミュニティコンサート	○	○	
6	日本ドイツ親善交流演奏会			○
7	小・中学生のための歴史教室	○		
8	文京ミュージックフェスタ	○		
9	子ども俳句大会	○		
10	親子向けコンサート	○	○	
11	紙媒体による情報提供	○	○	
分野別目標2 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援				
12	「アートウォール・シビック」への作品展示	○		
13	観客参加型公演	○	○	
14	朗読コンテスト	○		
15	かるたの街文京を発信!		○	
16	まるキャンマーケット～夏の陣、冬の陣～			○
17	吹奏楽アンサンブルコンテスト	○	○	
18	楽器演奏指導	○	○	
19	舞台芸術創造事業(大ホール)	○	○	
20	舞台芸術創造事業(小ホール)	○	○	
21	シビックコンサート	○	○	
22	カレッジコンサート	○	○	
分野別目標3 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり				
23	史跡めぐり	○		
24	文の京ゆかりの文化人顕彰事業	○	○	
25	文の京ワークショップ	○		
26	新・観潮楼歌会	○		
27	「文の京文化発信プロジェクト」	○	○	
28	盛岡市との友好都市提携記念事業			○
29	文京ふるさと歴史館友の会の支援	○		
30	文京ふるさと歴史館常設展示解説ボランティア	○		
31	森鷗外記念館解説ボランティア	○		
32	技能名匠認定事業	○		
33	「来て見て体験」文京の伝統工芸		○	
34	文京ふるさと歴史館特別展	○		

35	文京ふるさと歴史館収蔵品展	○		
36	森鷗外記念館特別展・コレクション企画	○		
37	映像資料調査・保存事業	○		
38	指定文化財等の保護・保存と管理	○	○	
39	文の京ミュージアムネットワーク	○		
40	コンピューターによる館内閲覧システム	○		
41	文京ふるさと歴史館だより・年報の発行	○		
42	森鷗外記念館ニュース・年報の発行	○		

(2)分野別事業数

主要事業、主要事業を除き区が実施する各分野の事業数は、以下のとおり(再掲事業を含む)。

分野別目標	主要事業	その他の事業
【分野別目標1】 だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり	11事業	5事業
【分野別目標2】 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援	11事業	0事業
【分野別目標3】 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり	20事業	8事業

2. 主要な事業の成果に対する評価

(1) 分野別目標1 だれもが文化芸術に親しむことができる仕組みづくり

前年度の課題と今後の対応・方向

① 能への理解を深める機会の創出

能プロジェクトは参加者が多く、限られた時間内で数種類の能の体験をしてもらうプログラムになっているため、流れ作業のように参加者を移動させてしまうことがある。能に対する一時的な関心の喚起も重要だが、関心を継続し、深掘りしていく機会を作っていくことも今後は重要である。

② 事業提携団体の認知度の向上

区及び文京アカデミーと事業提携している団体について、区民の認知度が向上することで、地域とのつながりが生まれ、事業への参加も促進されると考えられるため、周知に努められたい。

【取組状況の評価】

① 能への理解を深める機会の創出

能プロジェクトの実施にあたり、鑑賞プログラムの演目を前年度から変更するとともに、体験プログラムに謡の体験を新たに盛り込むことで、過去に参加した方にも新たな発見をってもらう機会となり、参加者の増に繋がっている。

《関連事業 2》

② 事業提携団体の認知度の向上

シビックホールでの区と(公財)文京アカデミーが事業提携している団体等の公演は、年間を通して開催しており、固定のファンが多く、安定的な来場者を得ている。

また、事業提携団体の協力により、(公財)文京アカデミーは親子が一緒に楽しめるコンサートを自主制作で開催しており、観客から好評を得ており、評価できる。

《関連事業 3、4、10、13》

【課題と今後の対応・方向】

(1) 文化芸術への興味や知識を高める

事業提携団体によるホールでの公演や小・中学校への出前コンサート等を通して、区民の文化芸術に対する興味・関心が高まり、事業への参加がさらに促進されると考えられる。区民のニーズにあったプログラムの実施について検討する必要がある。

(2) だれもが参加しやすい仕組みづくり

(公財)文京アカデミーの自主制作による親子向けのコンサートを開催しており、観客から好評を博している。今後は、より多くの方にホール事業に参加してもらえよう、対象者を拡大した新たなコンテンツの検討が必要である。

(3) 多様な主体・媒体による情報提供の仕組みづくり

区報やホームページ、(公財)文京アカデミーの情報紙やホームページ、SNS等により、事業についての情報提供がなされている。区民の興味・関心をさらに高め、事業への参加促進を図るため、公演内容の解説等、より踏み込んだ情報の提供を検討が必要である。

【参考事業】

■事業2 I don't know(能)…NO(能)problem!～みんなで親しむ「能(Noh)プロジェクト～

事業概要		
子どもたちに区内の貴重な文化資源である能に興味を持ってもらえるよう、公益社団法人宝生会と連携し、「鑑賞」と「体験」を交えた能に係るプログラムを実施する。		
事業実施内容	事業実績	
実施日:8月18日(日) 会場:宝生能楽堂 内容:能「小鍛冶」の鑑賞や能楽堂バックステージツアー、楽器・装束、謡、ARメガネの体験を実施。	当初予定数	320人
	実績数(※)	259人(235人)(340人)
	申込数	442人
成果	課題	
子どもたちに普段あまり触れることのできない能の鑑賞・体験の場を提供し、伝統文化に親しんでもらうことができた。	当日の参加者数が少ないため、実施時間や内容を再度検討する必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	繰り返し参加しても新たな発見があるよう、新しい演目や体験の追加等、事業内容を工夫していく。	

実績数(※)欄には、左から、令和元年度259人、(平成30年度235人)、(平成29年度340人)を記載

以下同じ

■事業3 事業提携楽団によるコンサート

事業概要		
区及び文京アカデミーと事業提携を結ぶ、東京フィルハーモニー交響楽団及びシエナ・ウインド・オーケストラの協力によりコンサートを開催する。		
事業実施内容	事業実績	
響きの森クラシック・シリーズ Vol.68 5月18日(土)実施 1,653名 Vol.69 9月14日(土)実施 1,644名 Vol.70 1月25日(土)実施 1,615名 フレッシュ名曲コンサート ランチタイムコンサート 5月10日(金)実施 269名 シエナ・ウインド・オーケストラによるコンサート 12月24日(火)実施 1,732名	当初予定数	6,796人
	実績数	6,913人(6,349人)(6,588人)
	申込数	—
成果	課題	
事業提携楽団である東京フィルの「響きの森クラシック・シリーズ」及びシエナ・ウインド・オーケストラの公演は、共に固定のファンが多く、一定の来場数を見込むことができる。	ホールの来場者を増やすため、さらなる顧客の獲得と定着を図る必要がある。	
	課題解決に向けた取組	
	公演の見どころガイドやユーチューブによる出演者インタビューなどをホームページに掲載し、ファンのすそ野拡大を図る。	

(2)分野別目標2 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援

前年度の課題と今後の対応・方向

①アートウォール・シビックの利用促進

アートウォール・シビックにおいて、例年展示を行っていた団体が、メンバーの高齢化等の様々な要因から作品制作が困難になり、応募ができなくなることもある。展示スペースの物理的な制約もある中で、新たな出展団体の開拓を行うなど、取り組みの工夫が求められる。

②身近な場所で音楽に親しむ機会の拡充

毎月開催しているシビックコンサートは、シビックセンターでランチタイムに誰でも気軽に音楽を楽しめる機会を創出しているが、日中に足を運ぶことのできる観客にその機会が限られている。仕事や学校帰りの人も立ち寄れる夕方などの時間帯に開催し、より多くの人が音楽に親しめるように機会の拡充を検討されたい。

【取組状況の評価】

①アートウォール・シビックの利用促進

福祉関係団体や区内学校に個別に声掛けをし、事業趣旨等の説明を行ったことで、前年を上回る申請に結びつけることができています。

《関連事業 12》

②身近な場所で音楽に親しむ機会の拡充

シビックセンター内オープンスペースでのシビックコンサートやホールで開催するカレッジコンサート、区内文化施設等を会場にしているコミュニティコンサート等、無料で観覧できる公演が複数開催されており、誰でも身近な場所で気軽に音楽を楽しめる機会が提供されている。

《関連事業 5、17、21、22》

【課題と今後の対応・方向】

(1)鑑賞・参加・創造・発表の機会と場所の充実

次年度からのシビックホールの改修に伴い、新たな鑑賞・発表機会等の確保が求められる。区内に所在する文化芸術施設に協力してもらうことにより、発表の場の喪失を防ぐとともに、貴重な文化資源に触れる機会を合わせて創出されたい。

(2)文化芸術活動をする人・団体への支援

区内文化芸術活動団体等との連携を図ることで、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながらも、区民や団体等が文化芸術活動を行うことができるよう、事業内容の調整など支援を行う必要がある。

(3)人材の育成と活動支援

文化芸術活動の担い手の高齢化が進んできていることから、新たな担い手を育成していくためにも、子どものころから文化に触れるきっかけとなる事業を展開するとともに、伝統文化親子教室等を利用する区内文化芸術活動団体等への支援を行う必要がある。

【参考事業】

■事業12 「アートウォール・シビック」への作品展示

事業概要		
若手芸術家の育成を図るため、シビックセンターの壁面を利用して平面美術作品の展示を行う。		
事業実施内容	事業実績	
11回実施(3月は中止) 出品者数166人、出品点数427点	当初予定数	—
かるたの街文京を発信！パネル展、なが〜いながいぞ展、文京の街角ノスタルジア写真パネル展、文の京跡見学園女子大学書道展、都立工芸高校デザイン科紹介パネル展、まどろみセブテンバー、本郷美術学院展、Will Jiang展、きずな一と/リアン文京、美it展、民族文化を描く展	実績数	166人(86人)(98人)
	申込数	166人
成果	課題	
区民に作品発表の場を提供するとともに、来庁者が気軽に美術作品に触れる機会を提供することができた。	前年度と比較すると、出品者数は増えているが、出品者は固定されつつある。	
	課題解決に向けた取組	
	出品実績が無い学校や施設等にも個別に声掛けを行い、新たな出品者の参加を促すことで、事業の活性化を図っていく。	

■事業21 シビックコンサート

事業概要		
クラシック、ポップス、ジャズ等、様々なジャンルの音楽を、区内の大学及び専門学校生が演奏するランチタイムコンサートを実施する。平成28年度より、財団の指定管理事業として実施。		
事業実施内容	事業実績	
【平成8年度～】 日時 毎月1回開催(原則第4水曜日)12:15～12:45 会場 区民ひろば 観覧者数 延べ2,281人 2・3月については、新型コロナウイルスにより中止	当初予定数	年12回
	実績数	年10回(年12回)(年12回)
	申込数	—
成果	課題	
出演する学生にとって、観客の前で演奏する絶好の機会となっている。また、オープンスペースでの無料コンサートであり、誰でも気軽に音楽を楽しんでもらうことができる。	音量の大きい楽器を使用した場合、区民ひろば周辺の部署の業務に影響がある。	
	課題解決に向けた取組	
	事前に関係部署に内容を知らせ、協力を仰いでいく。	

(3)分野別目標3 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり

前年度の課題と今後の対応・方向

①文京ふるさと歴史館の展示・広報の充実

文京ふるさと歴史館の特別展は、毎回とても質の高いものになっているが、展示作品の数や展示方法などを工夫し、だれでも楽しめるように取り組んでほしい。また、関係者向けに作成している年報は、一般の方が読んでも興味深い内容であるため、より多くの方に施設を知ってもらうツールとして必要である。

②観光分野との連携

博物館を文化資源としてだけでなく観光資源として活用する流れもあり、観光分野と連携した事業の企画などが今後求められる。

【取組状況の評価】

①文京ふるさと歴史館の展示・広報の充実

特別展及び収蔵品展とも、テーマの設定や展示方法に工夫を凝らすことで、多くの方が興味を持ち、楽しめる展示が行われている。年報についても例年同様に作成し、一部の図書館で公開されている。

《関連事業 34、35、41》

②観光分野との連携

文京ふるさと歴史館を観光デジタルスタンプラリーのスポットのひとつとするなど、観光分野との連携を図られている。

【課題と今後の対応・方向】

(1)地域の伝統や歴史に親しむ機会と場所の提供・充実

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を踏まえつつ、史跡めぐり・文の京ゆかりの文化人顕彰事業・森鷗外記念館での新・観潮楼歌会などの事業を行われたい。

(2)「文の京」の伝統文化を守り、伝える人材の育成と活動支援

新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、文京ふるさと歴史館・森鷗外記念館の解説ボランティアは活動休止している。ボランティアによる対面での解説以外の伝える活動を支援する必要がある。

(3)文化資源の再発見と保存・活用の推進

文京ふるさと歴史館・森鷗外記念館とも、今後の周年事業等を機会として、地域の魅力をより多く発信されたい。観光をはじめ、教育等の分野とも連携を図っていく必要がある。

(4)文化資源に関する情報収集・整理と発信

文化資源の現物を見ること、現地に行くことの重要性を踏まえつつ、一方で映像の発信など、新たな技術を使ってより多くの方に情報を提供する方策を検討する必要がある。

【参考事業】

■事業34 文京ふるさと歴史館特別展

事業概要		
文京区の歴史や文化に関することをテーマに設定し、資料収集、調査研究した成果を多角的に掘り下げた特別展を開催する。		
事業実施内容	事業実績	
文京区の歴史や文化に関することをテーマに設定し、資料収集、調査研究した成果を多角的に掘り下げ、館蔵資料を主体に、他機関で所蔵する資料を借用して特別展示を開催する。	当初予定数	—
	実績数	4,138人(3,837人)(2,859人)
	申込数	—
成果	課題	
文京区史をはじめとする、過去の刊行物・書籍等では取り上げられる機会の無かった歴史や文化を再発見し、周知することができた。	開館から四半世紀を経過し、来館者数が頭打ちの傾向にあり、新規来館者の増加について検討する必要がある。	
	課題解決に向けた取組 これまで光のあたりにくかった文化資源の発掘と活用に向け、来館者アンケートなどに基づき改善点を抽出し、より魅力ある展示としていく。	

■事業41 文京ふるさと歴史館だより・年報の発行

事業概要		
文京の歴史・文化に関する情報や、歴史館の事業、調査研究成果等について周知する。		
事業実施内容	事業実績	
文京の歴史・文化に関する情報や、歴史館の事業、調査研究成果等を冊子にまとめ、周知する。	当初予定数	6,500部(歴史館だより6,000部年報500部)
	実績数	6,500部(6,500部)(6,500部)
	申込数	—
成果	課題	
区民・関係機関・来館者などに事業等を周知ができた。 歴史館だより 6,000部 年報 500部	歴史館だよりは現在2色刷りであるが、より興味を持って見てもらう工夫が必要である。年報についても、より多くの方に見てもらえる機会を増やす必要がある。	
	課題解決に向けた取組 現物の色が伝わりやすくするよう歴史館だよりのカラー化等を検討する。年報バックナンバーで残部のあるものを配架し、希望する来館者が持ち帰れるようにした。	

3. 分野別目標に対する事業を通じた達成状況

文京区アカデミー推進協議会委員(学識経験者)
生涯学習・文化芸術分科会座長 田中 雅文

①分野別目標1 だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり

②分野別目標2 文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援

③分野別目標3 「文の京」の文化を守り、伝え、活用する仕組みづくり

④分野の総評